

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 15	公益目的事業 19
主査名	寺田 一薫 ・ 東京海洋大学海洋工学部 教授	
研究テーマ	アクセシビリティ改善のための交通システムとインフラ施策に関する研究※	

研究の目的：

維持すべきユニバーサルサービスの範囲確定のベースとしてのアクセシビリティ指標について分析したうえで、地方港湾、道路などアクセシビリティを決定づけると考えられる交通サービスとインフラについて具体的課題を取り上げ、それぞれの整備施策がアクセシビリティ指標に与える影響について検討する。同時にそのことが実際に地域住民の厚生に寄与しているか、生活パターンをどのように変化させているかを分析する。

研究の経過（4月～9月）：

2016年8月8日(第1回)と9月27日(第2回)の研究会を開催し、鉄道・港湾等のインフラと買物弱者問題等に関する実証的課題を整理した。第1回研究会では、「三陸地域における公共交通機関の東日本震災からの復旧状況」として、都市間移動時間からみた復旧状況について議論した。また、「広島港における港湾運営会社制度導入と同会社の選定」として、アクセシビリティ確保の前提としての効率な埠頭群の運営、サービス水準向上、コスト低減化について討論した。第2回研究会では、「自動車部品のサプライチェーンにおけるロジスティクス分化」として、北部九州における自動車会社2社の調達戦略の違いや港湾利用形態について議論した。また、「君津市における買物支援」として、山間部よりも都市部において住民の店舗への移動に関する不満が大きい実態などについて討論した。

下期へ向けて（課題等）：

最大2回程度の研究会を開催し、残された離島航路、需要応答型輸送、空港、道路などアクセシビリティを決定づけると考えられる重要な交通サービスとインフラについての論点整理を行う。また、前半の活動が実態調査に終始したため、後半ではアクセシビリティとその指標化・政策的利用に関する規範的な課題についての研究を深度化する。

研究メンバー（敬称略）：

寺田一薫（主査・東京海洋大学）林克彦（流通経済大学）遠藤伸明（東京海洋大学）手塚広一郎（日本大学）高橋愛典（近畿大学教授）寺田英子（広島市立大学）伊藤秀和（関西学院大学）谷貝等（計量計画研究所）小川雅史（東京海洋大学・国土交通省）黒山良洋（東京海洋大学）柴田翔太郎（東京海洋大学）